

惑星コトウラブランディングホームページの完成と公開について

企画政策課

このたび、TNG メンバーが監修した町のブランディングサイト「惑星コトウラブランディングホームページ」が完成しました。

このサイトは「まちの魅力が集約され、成長していくプラットフォーム」をコンセプトに、「小さいくせに ぜんぶある」を体現できるサイトとなるよう、1年かけて制作しました。

1 「まちの魅力を発信したい」若手職員の想いから生まれたサイト

本サイトは、まちの名所などを掲載する、いわゆる観光情報サイトではありません。プロジェクトメンバー自らが取材・作成した記事を更新し、情報を充実させていくWEB サイトです。

また、記事を読んだ読者が、実際に足を運び、そのモノに触れ、そこで新たなコミュニケーションが生まれるといった、つながりづくりを担うツールになって欲しいという想いも込めて制作しました。

2 住民参加型で「小さいくせに ぜんぶある」を体現するサイトに

本サイトには、惑星コトウラに関する取組などを歴史としてアーカイブしていく「惑星コトウラの歴史」やメンバーが更新するWEB マガジン「探索！惑星コトウラ」などのコンテンツを用意。

また、住民参加型のWeb サイトを目指し、インスタグラムの投稿コーナーを用意。今後は写真コンテストの開催を予定するなど、住民の皆さんとともに惑星コトウラの魅力を発信していき、「琴浦町は本当に何でもあるんだ」と実感していただけるようなサイトとなるよう運用していきます。

3 今後の運用

町ホームページの担当課である企画政策課と連携しながら、TNG メンバーが情報を更新していきます。

4 サイトへのアクセス

琴浦町ホームページのトップページにある「惑星コトウラ」分野からサイトの閲覧ができます。



▲ 琴浦町ホームページ



▲ 惑星コトウラブランディングホームページ

空き家利活用シンポジウム in KOTOURA 開催について

企画政策課

空き家利活用の取組に対する地域への浸透や機運醸成、空き家バンクへの登録誘導などを図るため、「空き家利活用シンポジウム」を開催。当日は収録のみ行い、後日 TCC 特集番組にて配信する。

- 1 日時 令和4年3月6日(日) 午後1時 ~ 午後4時
- 2 会場 まなびタウンとうはく 4階 多目的ホール
- 3 主体 主催 とっとり空き家利活用推進協議会(共催：琴浦町、後援：鳥取県)
- 4 テーマ 「琴浦町の空き家対策の今後を考える」
- 5 内容
 - (1) 講演
 - ア 演題 「空き家を活かすと町が変わる～住まいの終活を始めよう!～」
 - イ 講師 野澤 千絵さん(明治大学政治経済学部教授)
 - (2) パネルディスカッション
 - ア テーマ「琴浦町の空き家の現状から」
 - イ コーディネーター 野澤 千絵さん(明治大学政治経済学部教授)
 - ウ パネリスト
 - ・馬野 慎一郎さん(琴浦ポレポレな暮らし 会長)
 - ・松田 秀樹さん((有)ニーズ 宅地建物取引士)
 - ・小林 清さん(NPO 法人 いんしゅう鹿野まちづくり協議会 副理事長 事務局長)
 - ・山口 秀樹 副町長
- 6 その他
 - ・コロナ感染予防のため、観客は入れずに収録のみ実施
 - ・TCC で全内容放映を行う(3/22 から TCC プラス(12ch)で放送予定)



関係人口創出事業に係る認定式とイベントの報告について

企画政策課

1 コトウラファンサポーター(ふるさと住民)認定式について

(一社)構想日本が提案する「ふるさと住民票制度」を活用し、本町のまちづくりに様々なかたちで関わっていただく町外在住の関係人口を「コトウラファンサポーター」として認定し、認定証と専用名刺を交付しました。

出身地に愛着がある人、新たに「ふるさと」を創出したい人など、関係人口として多様な関わり方に応えつつ、今後のまちづくりに関わっていただくことを目的とします。

■コトウラファンサポーターの認定証を以下の2名へ交付しました。

日時：3月12日(土)14時30分～ オンライン形式

認定者：東京在住 20代女性 琴浦町出身
東京在住 20代女性、 東京都出身



【3月13日掲載：日本海新聞】



【交付した認定証と専用名刺】

2 TNG 衛星探索事業「コトトーク！」開催について

琴浦町への移住者や関わりのある人がスタッフとして関わった TNG 主催のオンラインイベント。今回認定されたコトウラファンサポーターの2名も企画・運営に携わり、琴浦町の「観光地」や「食」だけでなく、「人」にスポットを当てた魅力紹介オンラインツアーを行いました(参加者：32名)。

町へUターンされた WAKUcoffee 中本様、元地域おこし協力隊で町内で農業に励む大原様を訪ねた現地レポートや農業にまつわるクイズ、参加者とチャットを使ったやりとりをしながら、町の魅力を発信しました。



【オンラインイベント中の様子】



【移住者と関係人口で企画運営】

みんなで考える家庭ごみ減量会議提言書報告会について

企画政策課

琴浦町の家庭ごみの減量について、今年度4回にわたり「みんなで考える家庭ごみ減量会議」を開催しました。会議での議論を踏まえ、町及び町民全体へ向けた提言書が作成され、町長へ手渡されました。

提言書の詳細は町HPへ掲載するとともに、TCC特集番組で放映します。

1 日 時 令和4年3月12日(土) 9:30~12:00

2 会 場 分庁舎2階 多目的ホール

3 テーマ 「みんなで考える家庭ごみ減量」

4 内 容

- ・手交式 会議参加メンバーから町長へ、完成した提言書を手交
- ・提言の施策への反映について(担当課からの方向性説明)
ごみの減量について更に考える場として、「コトウラ環境アクションチーム(仮称)」の設置の提案 等
- ・意見交換 提言に記載のあるものについて、行動に繋げていくための議論を行った。



5 提言書の内容について(抜粋)

提言	No.	11の柱	みんなで行う主な取組・目標
提言1 目標	1	目標を持ち、達成度が見える化する	住民みんなで生ごみ50%減量を達成する！
提言2 意識	2	ごみのことを知り、見える化する	現在の処理のプロセスやコストが見える化する
	3	ごみのことを町の人に伝え、広める	広報ことうらにごみについて知るためのコーナーを設ける
提言3 基本	4	行動へのきっかけをつくる	ごみの減量の成果に応じたポイント制度やごみ袋の価格見直しを検討する
	5	ごみの発生を防ぐ (リフューズ&リペア)	住民と事業者が一緒にごみの発生を防ぐための話し合いの場を設ける
	6	ごみの量を減らす(リデュース)	水切りの推進。コンポストや生ごみ処理機の補助制度をつくる
	7	再利用する(リユース)	フリーマーケットや掲示板などの機会を検討する
	8	資源としてリサイクルする (リサイクル)	軟質プラスチックについて、多くの住民に知ってもらう
提言4 挑戦	9	循環型社会の実現に挑む	住民と事業者が一緒に過剰包装などを減らすための取組みを話し合うことができる、意識共有の場をつくる
	10	ごみ問題の解決を他の課題の解決につなげることに挑む	引き続き、他自治体の情報を調べつつ、継続的に研究する場を設ける
	11	継続・行動・進化で琴浦から世界へ！	-

受講生募集

第7期生：令和4年4月入学生を募集します

熱中小学校とは

全国19の拠点で多彩な教授陣による授業を行っている大人の学び舎です。地域に根ざした学びと実践で、新しい仲間と新たな価値を発見していく場所です。

主な講師



三菱総合研究所主席研究員
松田智生先生

1966年東京生まれ。慶應義塾大学法学部政治学科卒。専門は地域活性化、アクティブシニア論。逆参勤交代構想で地方と都市の人材循環を提唱し実践する地方創生分野の第一人者。著書に「明るい逆参勤交代が日本を変える」「日本版CCRCがわかる本」など。



高地大学地域協働学部客員教授
黒笹慈幾先生

1950年生まれ。小学館入社。「三丁目の夕日」「釣りバカ日誌」「人間交差点」などコミックのヒット作を生み出す。その後ラビタ、ビーバル、edu編集長をつとめる。「釣りバカ日誌」の主人公ハマちゃんのモデル。2011年高知へ移住、南国生活技術研究所を設立。



元オフコース・ドラマー
大間ジロー先生

1976年「オフコース」にドラマーとして加入。1989年の東京ドームコンサートを最後に解散。約20年にわたり日本の音楽シーンをリードしてきたバンドの歴史にピリオドを打つ。代表曲は『さよなら』『YES-NO』『愛を止めないで』『君住む街へ』など。

▶ 毎月1回、計6回、毎回2人ずつ様々な分野でご活躍されている方々に授業をしていただきます。

開催要項

会期 令和4年4月～9月

会場 旧以西小学校、まなびタウンとうはく

対象者 どなたでもご参加頂けます

入学要件 インターネットメールで連絡の取れる方

募集期間 令和4年3月31日まで

授業料／個人 10,000円 法人 30,000円（1回につき2名受講可）
スポット受講 2,000円（1回に限る）

※お支払い方法は入学受付後、別途ご連絡いたします。

申込方法 WEB申し込み、またはこのチラシ下部の申込用紙にご記入のうえ、熱中小学校事務局（琴浦町宮木239）琴浦町役場企画政策課（琴浦町徳万591-2）までご提出ください。

オンライン
受講可！

申込書

入学種類 個人（10,000円）・法人（30,000円）・個人（学生無料）

お名前

ご住所

メールアドレス

とっとり琴浦熱中小学校事務局
（一般社団法人 熱中ことうら）

〒689-2522 鳥取県東伯郡琴浦町宮木239 旧以西小学校

MAIL kotoura.necchu@gmail.com

TEL/Fax 0858-49-8003

WEBで簡単申込！

右のQRコードまたは下記URLにアクセスし、第7期生入学申込フォームに必要事項をご記入ください。
<https://bit.ly/3q8kLvz>



第7期講師陣

様々な分野でご活躍されている方々に授業をして頂きます。

各開催日に、全国先生を含む2人の先生が講義！

4月23日（土）



坪田智己先生

情報哲学者。日本経済新聞社に入社し、インターネット戦略の策定を主導。「日経・電子版生みの親」と呼ばれる。定年後は、日本の国語教育の改革をめざし、2011年に文章講座を始めた。



福井伸一郎先生

山上憶良の会会長
前倉吉市教育長。2019年より、伯耆国に赴任した万葉歌人山上憶良を顕彰する山上憶良の会で、学校への出前授業、講演、書籍の出版など活動。

5月28日（土）



長澤秀行先生

とちぎ熱中小学校校長。寄生虫免疫学の研究に従事。研究の場を母校である帯広畜産大学に移し、副学長を経て学長就任。16年にとちぎ財団の理事長に就任。現在は帯広畜産大学顧問。



石村隆男先生

（公財）とっとりコンベンションビューロー理事長
1999年官民による地域活性化プロジェクト大山王国を立ち上げ、「エコツーリズム国際大会2013 in鳥取」事務局長、総務省地域力創造アドバイザーを歴任。

6月25日（土）



松田智生先生

三菱総合研究所主席研究員
専門は地域活性化、アクティブシニア論。逆参勤交代構想で地方と都市の人材循環を提唱し実践する地方創生分野の第一人者。



河崎妙子先生

レストラン・プロデューサー
食の専門の出版社で雑誌や書籍の編集に携わる。独立後、『日経流通新聞』『日経レストラン』などに執筆。有限会社・河崎妙子事務所を設立。女子栄養大学、東京大学で講師など務める。

7月23日（土）



大間ジロー先生

元オフコース・ドラマー
1976年「オフコース」にドラマーとして加入。1989年の東京ドームコンサートを最後に解散。代表曲は『さよなら』『YES-NO』『愛を止めないで』『君住む街へ』など。



種子晋司先生

株式会社ヘイセイ代表取締役社長
家業のプロパンガス販売業を引き継ぎ、建設業にも進出。さらに地元産のあご（トビウオ）を原料にした「あご入り鰹ふりだし」を開発し、全国で販売展開中。鳥取県民が選ぶ「とっとり旨いもん100」受賞。

8月27日（土）



黒笹慈幾先生

高地大学地域協働学部客員教授
小学館にて「三丁目の夕日」「釣りバカ日誌」「人間交差点」などコミックのヒット作を生み出す。その後ラビタ、ビーパル、edu編集長をつとめる。「釣りバカ日誌」の主人公ハマちゃんモデル。

未 定

9月24日（土）



井上 優先生

一般社団法人カルチベイト代表理事。現在みやぎNPO協働支援センター&宮崎県地球温暖化防止活動推進センター責任者。修験文化を再興させようと「滝行プロジェクト」に取り組む。

未 定

令和３年度 地域人口ビジョン策定報告会

【趣旨】

今年度、一社）持続可能な地域社会総合研究所とともに町内全地区を対象に地域人口の現状分析と将来推計を行い、同時に現地に赴きまちづくりの推進状況調査を行った。また成美、浦安、赤碕地区においては地域づくりワークショップを実施した。

その結果を報告すると共に、地域人口安定化に向けた対策を提案していただく報告会を開催する。

【日時】

令和４年３月２５日（金）１５：００～１７：００

【場所】

琴浦町役場本庁舎 ２階 防災会議室

【参加者】

公民館関係者、地域協議会関係者、町議会議員、関係職員等

【内容】

①報告「令和３年度地域人口ビジョン（仮）」（オンライン）

報告者：一社）持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山 浩 氏

②報告「地元天気図から見える地域の現状（仮）」

報告者：一社）持続可能な地域社会総合研究所 特別研究員 中山 義規 氏

③講話「まちづくりセンター化にむけて（仮）」（オンライン）

講師：一社）持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山 浩 氏

【その他】

- ・ コロナの状況も踏まえ、最低限の関係者で開催
- ・ 藤山所長はオンラインでの参加
- ・ 中山特別研究員はPCR検査実施のうえ、対面で参加